

令和5年度 日南市立吾田東小学校 学校評価書

4段階評価	4・・・達成（期待以上）	3・・・ほぼ達成（ほぼ期待どおり）
	2・・・不十分（やや期待を下回る）	1・・・改善を要する（期待を下回る）

評価項目	方策・手立て	評価		学校評価	結果の考察・分析及び改善策等	
		児童	保護者			
学力の向上	分かる・できるを実感できる授業実践	望ましい学習習慣の育成と指導方法の工夫改善に努め、学力の向上を図る。	3.57	3.23	3.15	<p>本校では、『主体的・対話的に学び、学力を高める児童の育成～「ICT機器タブレット」を活用した授業改善』を研究主題として各教員が日々授業改善に取り組んでおり、ICT機器を活用した授業は特別な事ではなくなっている。児童・保護者の評価値もほぼ昨年度と同等であり、全体として学習意欲や学力が低下している実感はない。ただ、学年による差や個人差は大きくなってきていると感じられるので、今後も指導方法や指導形態、家庭学習の在り方など改善に努めていく。</p> <p>読書量は11月末現在での全校合計16000冊を超えており、昨年度より減っているものの、一昨年度は上回っている。図書司書との連携や、市図書館の学級文庫の入れ替え等が功を奏していると思われる。今後は、読書の量だけでなく質の向上も目指していく。</p>
	学びの確かめの充実	活用問題に積極的に取り組ませ、習熟や個別指導の充実を図る。〔自ら学ぶ力〕	3.48	3.23	3.24	
	読書に親しむ習慣の育成	学校図書館司書等を積極的に活用し、読書環境の充実を図る。〔他者から学ぶ力〕	3.42	3.22	3.19	
	作品作りを通した表現力の育成	作品掲示等を通して、表現力や豊かな感性の向上を図る。〔自然から学ぶ力〕	3.44	3.25	3.21	
豊かな心の育成	寄り添った指導の充実	実態把握や諸調査を通して温かな言葉かけや指導に努める。〔他者から学ぶ力〕	3.67	3.26	3.32	<p>不登校や登校しぶりの児童はいるものの、児童アンケートによるいじめ訴えはほぼない状況にある。今後も、早期発見や早期対応の取組を行っていく。また、不登校に関しても外部機関の活用も含め、根気強く継続して支援をしていく。</p> <p>基本的な生活習慣については、児童・保護者とも昨年度とほぼ同じ結果となったが、教師からみたときにはもう少し部分もある。特に無言の場については、今後も指導の徹底を図っていく必要がある。</p> <p>安全意識については、児童・保護者・教員ともよい結果となった。定期的な避難訓練の実施や荒天時の登下校時のメールによる注意喚起などが功を奏していると思う。今後も継続して指導を行っていく。※情報モラルについては後述ボランティア活動については、計画生活委員会を中心とした朝の挨拶活動や、各学級での活動などができている。</p>
	生活指導の工夫	「あいさつ・会釈」「無言の場」「1分前着席・立腰」等に関する指導の徹底と質の向上に努める。	3.50	3.13	3.38	
	危機回避能力の育成	交通安全、避難訓練、情報モラル、非行防止の指導等の充実を図る。〔社会から学ぶ力〕	3.76	3.27	3.27	
	自主的・自発的に活動する児童の育成	特別活動やボランティア活動等を通して、何事にも前向きで主体的に取り組む態度の高揚を図る。〔社会から学ぶ力〕	3.64	3.17	3.31	
たくましく体づくり	健康診断後の指導の充実	検診結果をふまえた保健指導を推進し、肥満指導や治療率の向上を図り、健康意識の向上を図る。	3.61	3.33	3.22	<p>健康意識については、児童・保護者ともに昨年と同程度の数値となっているが、各治療率については現段階で40%程度に留まっている。また、学級による差も大きい。今後も保護者への啓発をより行っていく必要がある。</p> <p>生活習慣に関しても、昨年度と同程度の数値となっている。養護教諭が定期的に健康安全に関する情報提供を行ったり、学校保健委員会を実施したりしたことが功を奏していると思う。今後も継続して更なる意識向上に努めていく。</p> <p>運動会は久しぶりに声出し応援が可能になり、大いに盛り上がった大会であった。児童の運動への意識も高まっており、今後3学期に計画されている持久走や縄跳びなどの活動を充実させ、児童の意識の高揚を図っていく。</p> <p>給食指導の充実を図ることができ、全体として残菜も少なくなってきた。</p>
	健康安全教育的の充実	「早寝・早起き・朝ご飯」の実践や学校保健委員会の実施、保健だよりの発行を通して、健康安全意識の向上を図る。	3.49	3.23	3.22	
	体力向上プランの推進	運動会、持久走大会や縄跳び大会等、目標となる取組を設定し、運動意欲の向上を図る。	3.60	3.14	3.27	
	食に関する指導の推進	弁当の日の取組や給食指導を核として、「食」に関する指導の充実を図る。	3.70	3.25	3.36	
家庭・地域との連携	家庭や地域への情報発信の充実	学校だよりの発行やホームページの内容を常に更新させ、学校の情報発信に努める。	3.75	3.36	3.30	<p>学校だよりの発行やホームページを通じて、必要な情報の発信はできた。また、保護者への文書連絡の補完として、電子メールを活用した情報の提供を行い概ね好評であった。今後もネットワークの活用を広げていく。</p> <p>情報モラルに関しては、児童の数値と保護者・教職員の数値との乖離が大きい。ネットいじめなどは見受けられないものの、スマートフォンやゲーム機等の夜遅くまで使用することによる、生活習慣の乱れが目立つ児童もいる。このことは学校だけの問題ではなく社会全体の問題ではあるが、学校の役割として児童への指導とともに保護者への啓発を強めていく必要がある。</p> <p>授業参観および学級懇談の出席率は概ね良好であった。また、地域学校協働活動推進員との連携が図られ、地域人材を活用した様々な活動を行うことができた。</p>
	情報モラルの育成	情報モラルに関する授業やメディアコントロールの大切さについて、親子で意識を高める機会の充実を図る。〔自ら学ぶ力〕	3.61	3.15	3.13	
	家庭との連携の充実	学校と保護者が密に連携し、課題について実態を共有し、解決に向かって寄り添うことに努める。	3.50	3.18	3.23	
	地域との連携の充実	地域学校協働活動推進員の積極的な活用により、ふるさとを愛する教育活動の充実を図る。	3.46	3.15	3.09	

学校運営協議会委員のご意見等

- ・ 不登校児童や登校しぶりの児童もみられるが、学校だけでの対応には限界がある。発達支援センターやフリースクールなどの活用も進めた方がよい。
- ・ ボランティアで授業に携わった際の忘れ物が気になった。特に技術芸術科目は道具類を忘れると学習が成り立たない。学習用具の準備は家庭の役割ではあるが、呼びかけなど学校で出来ることを行ってほしい。
- ・ 豊かな心の育成では、保護者の数値が低い項目がほとんどであるが、参観日などで子ども達の様子を見ているとよく頑張っている事が分かる。ただ普段の子ども達の様子を見ることが出来ない保護者もいるので、広報紙などを活用しながら子ども達の頑張りを広く伝えていくようにしてほしい。
- ・ むし歯など、保健関連の治療率の学級差が大きい理由は何だろうか。生活習慣の確立が必要であるだろうから子ども達への指導と家庭への啓発を行ってほしい。
- ・ 難しいかもしれないが家庭や地域と連携した避難訓練の実施を検討してほしい。町づくり協議会やPTAと連携してはどうだろうか。